

防錆管理士養成講座

通 信 教 育

第66回 防錆技術学校 募 集 案 内

後 援

経済産業省

国土交通省

日本商工会議所

一般社団法人 日本防錆技術協会

<http://www.jacc1.or.jp>

受講のすすめ

日本を救う防錆防食技術

近年、インフラの老朽化に伴う腐食問題が深刻化しており、これに対処するための防錆防食技術の重要性が高まっています。特に、下水道や上水道配管も腐食による漏水、道路の陥没事故は頻発しており、都市の安全性や生活の質に直接的な影響を及ぼしています。これらの問題は、インフラの長期的な耐久性確保と密接に関連し、従来はあまり意識されていなかったメンテナンスの重要性が、身近な問題として浮上しています。特に、腐食による問題が増加し、上下水道料金の上昇とともに、生活に直結するインフラの安全性確保が急務となっております。

腐食は、橋梁、送電鉄塔、工場建屋、製造設備、プラントなど、私たちの身の回りに存在するさまざまな構造物に影響を及ぼしています。これらの設備に十分なメンテナンス費用を投入しないと、腐食の進行により、事故や使用停止といった深刻な事態に陥る可能性があり、定期的な点検と適切な防錆処理が必要です。

企業においては、生産設計段階から耐久性を考慮し、目標耐用年数まで腐食を防止する技術が必要です。生活に密着した建築物やインフラは、100年を目標にメンテナンスを行いながら長期間使用できる技術の確立が求められます。これを実現するためには、防錆管理士の資格取得や専門的な知識の習得が大変重要です。

総じて、腐食問題は都市インフラの持続可能性と安全性を左右する重要な課題です。早期の対応と高度な技術の導入により、長期的な視点でのインフラ維持管理を推進し、安心して暮らせる社会の実現を目指す必要があります。大学教育においては、塗料の研究やインヒビターの講座が減少しており、将来の防錆防食技術に対する不安も指摘されています。海岸に作られた、30年耐用の鋼構造物が、8年で使用不可になるなど、防錆防食技術がないがしろにされた結果です。このような課題に対処し、持続可能なインフラの維持を実現するためにも、教育や研究の充実も不可欠です。

少子高齢化の進展に伴い、人材の育成や技術の継承が困難になってきております。現場で実務に携わる人を対象とした防錆技術学校は、防錆防食に関係ある方々が、少しでもこの技術を理解することによって、ノウハウを若手に引き継ぎ、防錆防食技術をもって、社会を豊かにするための人材教育として活用いただける内容となっております。また、個人にあってはご自身の技術力の証に、是非、当通信教育（防錆管理士養成講座）を受講され、防錆防食技術をマネジメントできる技術者（真の防錆防食技術者）になられることをお勧めいたします。

「防錆管理士」資格の概要と役割



防錆管理士は、産業界において重要な役割を担う専門資格です。この資格は、一般社団法人日本防錆技術協会が主催し、経済産業省や国土交通省などの後援を受けて実施される養成講座を修了した者に授与されます。資格取得には、共通課程と専攻課程の全科目を修了し、防錆管理士認定基準を満たす必要があります。また、面接講義の全日程に出席し、筆記試験と防錆管理士認定論文審査に合格することも求められます。

資格の意義と認定基準

この資格は、産業界において高い評価を受けており、権威ある認定資格とされています。認定者は、防錆管理士としての専門知識と技能を証明し、産業界のさまざまな分野で活躍しています。これらの分野には、建築、土木、電力、通信、ガス、機械、化学、自動車、プラント、電気・電子、運輸・物流などが含まれます。資格取得者は、設計、製造、検査、管理の各段階で防錆・防食技術のスペシャリストとしての役割を果たし、産業の安全性と耐久性の向上に寄与しています。

認定者の現状と活躍

現在、防錆管理士の認定者数は17,145名にのぼります。これらの専門家は、卓越した知識と技術を活かし、さまざまな産業分野で重要な役割を担っています。彼らは、設計段階から製造、検査、管理までの各工程において、防錆・防食技術のスペシャリストとして活躍し、産業の安全性と信頼性の向上に貢献しています。さらに、防錆管理士は、技術の進歩に対応しながら、継続的な教育と研鑽を重ねており、産業界におけるリーダーシップを発揮しています。

修 業 式



教育の概要

4月から翌年3月までの**1年間の通信教育**です。通信（郵送）を通じて行いますので、場所や時間を問わず学習を進めることが可能です。通信制の特性を活かし、柔軟な学習環境を提供しています。

教育は、**共通課程**と防錆防食専門分野別の**専攻課程**からなっています。

共通課程では、防錆防食を学ぶために知っておかなければならない腐食の定義、金属の腐食と電気化学、腐食の種類、環境と腐食、耐食材料、防錆防食法などを学習します。また、参考資料として高校程度の化学講座をCDに収めておりますので、必要な時に、見直すことにより、学ぶことができます。

専門課程には、**施設防食科、防錆塗装科、防錆塗装科別科、めっき科、防錆包装科**の5つの科があり、**受講申込時**に希望の科を選択します（複教科の同時受講も可能です。：追加受講）。

専門課程では、共通課程で学んだことをもとに、科目専門の講師が指導にあたります。各科は、それぞれ15の専門分野で編成され、詳しく記述された教科書と丁寧な通信指導により、深い知識が得られます。

理解度を把握していただくために、各設問に対するレポートを提出いただき添削指導を行うとともに、新技術、新情報を面接講義（対面）形式で指導してまいりますので、より深く理解することができます。

防錆技術学校スケジュール

行 事	日 程
募 集 期 間	令和8年 3月25日(水)まで
開 講	〃 4月1日(水)（第1回教材発送日）
教 育 期 間	〃 4月1日(水)～令和9年3月5日(金)
共通課程	〃 4月1日(水)～7月上旬
学習指導（希望者）	〃 5月13日(水)（東京会場）
〃	〃 5月15日(金)（大阪会場）
専攻課程	〃 7月中旬 ～令和9年2月中旬
面接講義（必須）	〃 9月3日(木)～4日(金)（大阪会場）
〃	〃 10月1日(木)～2日(金)（東京会場）
認定論文作成期間	〃 11月上旬 ～令和9年1月中旬
修 業 式	令和9年 3月5日(金)（修業証、認定証授与）

※日程には、変更が生じる場合があります。

面接指導

1. 学習指導

共通課程の講師による学習指導（希望者）を行います。学習からしばらく遠ざかっていた方の共通課程の理解を助けます。

2. 面接講義

面接講義（必須）では、新技術や新情報について、各科専攻課程の講師や専門の講師が講義と質疑応答による教育を行いますので、通信教育に不足がちな講師とのコミュニケーションを得ることができます。

共通課程

共通課程では、腐食と防食を理解しやすいように、金属の構造と特性、電気化学の基礎、金属の腐食と電気化学、不動態と電気化学、腐食の原因と腐食形態から理解を始めます。ここで、ご自分で見てきた腐食がどのようにして生じたのか、他にも様々な腐食があるのだな、と理解できます。

続いて、環境との関わりあいについて学びます。近年、異常気象による気温の上昇と結露、台風の上陸による塩害など、工場内環境、倉庫環境、工事環境が大きく変化しております。環境と腐食では、大気、淡水、海水、土壌、その他の環境と金属が使われる様々な環境において、腐食とどのような係わり合いがあるのか。また、金属材料、金属以外の耐食材料は、どのような特性を持っているか、防食設計の考え方、金属材料を腐食から守るための防錆防食法の原理と方法について理解し、それぞれの専攻課程で応用する能力を養います。

学習科目と内容

科 目	科 目 内 容
1 腐食の基礎理論Ⅰ	金属の構造と特性、電気化学の基礎、金属の腐食と電気化学、不動態と電気化学について学習します。
2 腐食の基礎理論Ⅱ	均一腐食、局部腐食、濃淡電池による腐食、異種金属接触腐食、すきま腐食、応力腐食割れ、擦過腐食等について腐食の形態、腐食の原因、機構、現象について学習します。
3 環 境 と 腐 食	大気、淡水、海水、土壌、その他（主に化学）に分類し、それぞれの環境の特徴と金属の腐食について学習します。
4 耐 食 材 料	金属の特性から見た腐食や耐食性、主な耐食材料の特性及び樹脂の耐食性について学習します。
5 防 錆 防 食 法	防錆防食技術について基礎的な原理、概要、防錆防食設計及び塗装・ライニング、金属被覆、環境処理、防錆包装、電気防食法について学習します。
腐食形態写真集	大気中における鉄鋼、銅、ステンレス鋼、亜鉛を対象に、様々な腐食形態の写真と腐食がどのような条件で発生したのかを解説。通気差電池腐食、溝状腐食、すきま腐食、粒界腐食、脱成分腐食、応力腐食割れ、水素誘起割れ、腐食疲労、エロージョン・コロージョン、擦過腐食、高温腐食。その他ニッケルめっきの孔食、CASS試験で成長した銅の腐食生成物、塗膜のふくれと塗膜下の状況等を写真で解説します。

補助教材

化 学 の 基 礎	C D教材	共通課程の教科書を読み進め、化学記号・化学式などお忘れの場合に、お開け下さい。
-----------	-------	---

1. 施設防食科

超高層建築物、海上長大橋、海上空港と連絡橋、地下に張り巡らされている水道管、ガス管、下水道管、建築物の中にある各種配管、石油産業を中心とした化学プラント、発電プラント、海洋・港湾鋼構造物などと施設は広範囲にわたり、環境条件も様々です。金属を多用するこれらの施設は、新設されるもの、長期間使用され補修されるものなど様々です。近年、コスト削減のために化学プラントの解放点検の延長、老朽化した設備のメンテナンスによる各種施設の運転継続などが要求され、防食検査、保全管理が重要となってきております。

当科では、これらの要求に答えるべく、施設の建設、運用、保守管理に携わる方々に、施設の防食設計、適正材料の選定法や経済的比較をはじめ、施設ごとに発生する腐食の症状と原因及びそれに対処する適用防食方法について学習するとともに、防食検査法、保全技術をもとにメンテナンスについて習得いたします。

学習分野及び科目と内容

分 野	科 目	科 目 内 容
基礎論	1 施設防食設計	施設の耐久性は、設計時点ですでに決定している場合が多い。事故は起こるべくして起こっている。プラントを例に施設の防食を設計時点で考えることを学習します。
	2 耐食材料	各種施設に使われる耐食材料（金属、無機及び有機材料）について、より詳しく学習します。
	3 金属被覆 4 非金属被覆	金属によるコーティングと有機材料による防食、塗装やライニングについて学習します。
	5 電気防食 6 経済的価値論 7 環境処理	電気防食法についての原理・方法と具体的な施工方法及び応用、腐食性環境のコントロール法並びに各種防食法の経済的比較方法について学習します。
各 論	8 機械装置の防食 9 埋設配管の防食 10 建築物の防食 11 橋梁・鉄塔の防食 12 石油・化学工業の防食 13 海洋・港湾施設の防食 14 船舶の防食	熱交換器・ボイラー・内燃機関等の機械装置、ガス・水道を始めとする各種配管、建築物及び建築物内配管、橋梁・鉄塔、石油プラントを始めとする化学装置、船舶、港湾施設等産業に欠くべからざる施設類の腐食原因と防食方法について学習します。
管理論	15 防食検査 16 保全管理	腐食対策を講じるには、現在の状況を把握する必要があります。 的確なデータを得るためにはどうすれば良いか。施設を安全に稼働させるにはなど、保全管理のノウハウについて学習します。

専攻課程

2. 防錆塗装科

塗装は、身近なところでは、冷蔵庫、エアコン、レンジ、洗濯機、給湯器、自転車、自動車、各種運搬機器、工事車両、また、大型構造物の橋梁、プラント、鉄塔、船舶など幅広く利用されております。金属で作成された機器、施設は、その機能を終えるまで安全に保持することが求められております。たとえば、自動車であれば、走る機能を維持するためにはボディーなどを腐食から守る必要があるとともに、橋梁であれば、鉄道、自動車を安全に通さなければなりません。

当科では、被塗装物が使用される環境及び要求される性能を把握し、特に近年、見過ごされがちな前処理の重要性について学びます。環境に配慮した塗装設計、施工管理、原価管理、保守管理、これから、ますます、重要となるメンテナンスについても防錆塗装の基礎から応用まで、国際規格を含め、講義を通じ最新内容を習得いたします。

学習分野及び科目と内容

分 野	科 目	科 目 内 容
基 礎 論	1 塗料・塗装基礎理論 2 鋼構造物用塗料 3 工業用塗料	塗膜の防食機能、塗膜の形成と劣化、仕上がり外観を理論的に、また、塗膜の防食理論となぜ塗り重ねが必要か、層間付着性などは各塗料の特徴について樹脂別、目的別に学習します。
	4 物理的素地調整法 5 化学的前処理法	防錆塗装の良否を左右する要因として前処理は非常に重要であるため、ISOなど最新情報を基にプラスト処理、りん酸皮膜について、理論から実務まで学習します。
	6 塗装用機器 7 塗装用機械・設備	塗装に際して使用する塗装機器、足場、塗装ガンの特性、塗装ロボットの基本、塗装ラインの設備設計について、基本事項から利用の仕方を学習します。
各 論	8 鋼構造物塗装設計Ⅰ 9 鋼構造物塗装設計Ⅱ 10 工業用塗装設計Ⅰ 11 工業用塗装設計Ⅱ	橋梁、プラント、石油タンク、鉄塔などの陸上鋼構造物、船舶、ペンストック、水門などの水中・海洋鋼構造物、鉄道車輛、自動車、建材、家電製品などの具体的な塗装方法及び塗装設計方法について学習します。
	12 塗料の試験法 13 塗膜の試験法	使用する塗料の管理方法、性能検査をどのように行い安定した品質としたら良いかの各種試験方法と塗り替えの時期判定方法について学習します。
	14 鋼構造物塗装管理 15 ライン塗装管理	塗装を行うための準備機材、塗料の使用量、膜厚検査方法、塗膜欠陥の原因と対処方法、塗装コストの考え方などについて、塗装品質の管理技術について学習します。
試 験 法		
管 理 論		

3. 防錆塗装科別科（電力、通信関係）

塗装は、冷蔵庫のような家庭用品から自動車、大型鋼構造物の橋梁、プラント、送電鉄塔、電波塔に至るまで、幅広く使用されております。これらの製品や諸施設の耐久性は、防錆塗装の良否により決定されます。鉄塔などでは、溶融亜鉛めっきの消耗による鋼材の腐食が始まる前に、延命処置として塗装によるメンテナンスが重要となってまいります。

当科では、鉄塔などの亜鉛めっき面の塗替え、メンテナンスの判定とその施工法、電力関連施設などの長寿命化によるコスト低減、通信関係施設の延命化など、学習しやすいように、被塗装物の環境把握、その塗装設計と管理手法について実務に携わる方はもちろん、管理者及び設計者の方々も、防錆塗装の基礎から応用まで習得いたします。

学習分野及び科目と内容

分 野	科 目	科 目 内 容
基 礎 論	1 塗料・塗装基礎理論	塗膜の防食で要求される事項を理解して、前処理とのかかわり、流動性のある塗料がなぜ塗膜になるか、たれとの関係は、塗膜が剥がれないためには、塗膜はなぜ劣化するのか、100年防食の塗料など、塗装を行うための基礎を学習します。
	2 鋼構造物用塗料	
	3 工業用塗料	
各 論	4 物理的素地調整法	防錆塗装の良否を左右する要因として前処理は非常に重要であるため、ISOなど最新情報を基にプラスト処理、リン酸塩処理及び、各所で溶融亜鉛めっきによる防食が限界となり、塗替え塗装に入っている、亜鉛の耐食性などについて理論から実務まで学習します。
	5 化学的前処理法	
	6 溶融亜鉛めっき	
	7 塗装用機器	塗装に際して使用する塗装機器、足場、塗装ガンの特性、塗装ロボットの基本、塗装ラインの設備設計について、基本事項から利用の仕方を学習します。
	8 塗装用・機械設備	
	9 工業用塗装設計	鉄塔、電力施設、橋梁、プラント、海洋構造物、鉄道車両、自動車、家電と実例をもとに設置される環境に応じた塗装設計方法と工程について学びます。
	10 鋼構造物塗装設計Ⅰ-①	
	11 鋼構造物塗装設計Ⅰ-②	
	12 鋼構造物塗装設計Ⅱ	
試 験 法	13 塗料・塗膜の試験法	使用する塗料の管理方法、性能検査をどのように行い安定した品質としたら良いか、塗料の状態の試験、塗装後の試験方法について学びます。
管 理 論	14 鋼構造物の塗装管理	塗装を行うための準備機材、塗料の使用量、膜厚検査方法、また、鉄塔を主に塗替え時期の決定方法など具体的手法とその管理手法について学びます。
	15 鋼構造物メンテナンス	

専攻課程

4. めっき科

めっきは、金属表面に薄い金属層を付着させる技術であり、その目的は多岐にわたります。主な用途には、大型構造物の耐久性向上、意匠性の向上、耐食性の強化などがあります。具体的には、橋梁や鉄塔などのインフラ構造物においては、腐食や摩耗を防ぐためにめっきが施されます。自動車や建築物では、外観の美しさや耐候性を高めるためにめっきが利用され、電子機器や電気製品では、機能性や耐食性を付与するために重要な役割を果たしています。

当科では、めっき製品の設計において最適な設計方法と、めっき前処理の技術を学び、めっき施工の基本を習得します。学習内容は、電気めっき、化学めっき、真空めっき、貴金属めっき、合金めっき、機能めっき、金属溶射とともに、陽極酸化（アルマイト）、金属着色、拡散浸透などの表面処理技術も学び、これらの防錆性能や腐食特性について深く理解します。さらに、規制や安全管理についても教育し、めっき製品の発注者と製造者の双方に必要な知識を習得いたします。

学習分野及び科目と内容

分 野	科 目	科 目 内 容
基礎論	1 めっき概論	めっき技術の習得に必要な電気化学の一般的基礎と工業的に効率の良いめっきについて学習します。
	2 めっきデザイン 3 前処理	めっき製品の最適設計並びにめっきを施す前の研磨、脱脂、酸洗、活性化等について学習します。
	4 電気めっきⅠ 5 電気めっきⅡ 6 貴金属めっき・合金めっき	銅、ニッケル、クロム、亜鉛、すずめっきや、金、銀、ロジウム等の貴金属めっき並びに合金めっきについて、その処理方法と皮膜の特性を学習します。
各 論	7 化学めっき 8 陽極酸化 9 金属着色	プリント基盤に用いられる化学めっき、軽量化金属として需要が高まっているアルミニウムの陽極酸化、各種着色方法について学習します。
	10 熔融めっき 11 金属溶射 12 真空めっき・拡散浸透	めっき鋼板や各種鋼構造物に用いられる熔融めっき、近年注目されている溶射技術、電子産業で多用されている真空めっき、拡散浸透の理論から応用までを学習します。
試験法	13 試験法	各種めっきの試験評価方法について学習します。
管理論	14 工場管理 15 環境対策・安全衛生	めっきライン設計、品質管理体制、コスト対策などめっきに関するあらゆる管理技術並びに環境対策、安全衛生、劇毒物などについて幅広く学習します。

専攻課程

5. 防錆包装科

近年の地球温暖化や新型コロナウイルス感染症の影響により、製品のさびや錆の発生が増加しています。これに伴い、防錆包装の重要性が高まっています。特に、国際的な取引や生産の分業化が進む中で、輸出入される製品の防錆対策は不可欠です。

防錆包装科では、包装対象物の清浄化から始まり、防錆剤や防錆油、気化性防錆材料の適用方法を学びます。これらの資材を適切に選択し、輸送環境に応じた包装設計を行う技術を習得します。包装に使用される加工紙やフィルムの特性についても理解を深め、異なる内容物に適した資材の選定能力を養います。乾燥剤や脱酸素剤、緩衝包装設計などの知識も習得し、製品の保護と長期保存を実現します。

包装資材の基本から応用まで幅広く学習し、製造、利用、輸送に関わる知識を身につけることができます。これにより、国内外の物流や輸送において、効果的な防錆対策を実施できる人材を育成いたします。

学習分野及び科目と内容

分 野	科 目		科 目 内 容
基礎論	1	防 錆 包 装 概 論	防錆包装の原理・包装方法の種類・手順など、各論に必要な包装の考えについて学習します。
各 論	2	清 浄 剤	防錆包装に必要な前処理剤及び防錆処理について、工程順に清浄剤から防錆油剤、気化性防錆材、可はく性プラスチック、脱酸素剤、フィルム、加工紙、乾燥剤、テープ類にいたるまでそれぞれの特徴と適用方法について詳細に学習します。
	3	防 錆 油 剤	
	4	気化性防錆材Ⅰ	
	5	気化性防錆材Ⅱ	
	6	その他の防錆材料	
	7	フィルム・加工紙	
	8	乾燥剤・テープ類	
	9	前 処 理 法	防錆包装の基本である防錆材料の適用方法や固定緩衝、外装容器について学習します。
	10	個 装 法	
	11	固定緩衝包装設計法	
	12	輸 送 容 器	
試験法	13	材 料 ・ 個 装 試 験 法	包装材料の試験、防錆材料の防錆性能試験、個装後の防錆試験、貨物試験について総合的に学習します。
	14	貨 物 試 験 法	
管理論	15	包 装 管 理	包装管理の目的、包装管理組織、包装費用の総合的な考え方について学習します。

防錆技術学校講師一覧表

(令和7年10月現在)

(敬称略・五十音順)

會田 敬三 防錆管理士

(株)イーパック 技術課 次長代理

赤嶺 健一 防錆管理士

(株)I H I 技術開発本部 技術基盤センター 主幹
博士(水産科学)

審良 善和

鹿児島大学 学術研究院理工学域工学系 准教授
工学博士

東 則嘉

レンゴー(株) 開発本部 包装技術第一部
担当部長代理

阿相 英孝

工学院大学 先進工学部 応用化学科 教授
工学博士

厚地 一郎

(株)関東アスコン 代表取締役

伊澤 周平

栗田工業(株)イノベーション本部
宇宙の水プロジェクトグループ 開発課 課長

今田 克己

今田包装技術企画 代表

居安 隆志

栗田工業(株) バリユー・プロバイディング戦略本部
ユーティリティ技術部 主任技師

岩崎 保紀

奥野製薬工業(株) 総合技術研究部 領域長

植松謙一郎

王子エフテックス(株) 技術本部 品質保証部
グループマネージャー

梅戸 博英

ディップソール(株) 研究技術開発本部 課長
修士(工学)

大熊 勝実 防錆管理士

千代田化工建設(株) 品質管理部

小俣 一典

日本ビジネスロジスティックス(株)
包装ソリューション包装試験 部長

金子 武弘

(公社)日本包装技術協会 包装技術研究所
輸送包装研究室 室長

神尾 和男 防錆管理士

(一社)日本防錆技術協会

京 将司

材料システム研究所 所長 博士(工学)

久保 尊嗣

日本ペイント・インダストリアルコーティングス(株)
技術本部 工学修士

桑田 透

アネスト岩田(株) コーティング開発部
コーティング技術グループマネージャー

小杉山江里奈 防錆管理士

(一社)日本防錆技術協会 技術部 業務部 兼任 係長

後藤 大 防錆管理士

日本防蝕工業(株) 技術開発部 部長 技術士

齊藤 宏 防錆管理士

(一社)日本防錆技術協会 専務理事 事務局長
工学修士

酒井 哲也 防錆管理士

日本大学生産工学部 マネジメント工学科 教授
博士(工学)

坂内 恒雄 防錆管理士

坂内技術士事務所 代表 工学修士、技術士

坂本 達朗

(公財)鉄道総合技術研究所 材料技術研究部
防振材料研究室 主任研究員 博士(工学)

篠原 正

元物質材料技術研究所 博士(工学)

柴田 守 防錆管理士

アイ・エス工業(株) 代表取締役会長

鈴木 雅彦

(株)東北ウエノ 代表取締役

鈴木 雅洋

(地独)東京都立産業技術研究センター
特任技術アドバイザー 名誉フェロー

高橋 慶

NX商事(株) ロジスティクス・サポート事業部 部長

高橋 裕美 防錆管理士

日本化工機材(株) 技術部 化成品技術グループ
アシスタントマネージャー

竹村 昌太

(地独)東京都立産業技術研究センター 研究開発
本部機能化学材料技術部 プロセス技術グループ
主任研究員 博士(工学)、測量士補

谷村 浩 防錆管理士

パナソニック(株) 空質空調社 HVAC 開発センター
空質空調コア技術部 材料技術課

田畑 祐太 防錆管理士

オーエム工業(株) 技術グループ 品質サブリーダー

津田 昌幸

N T T(株) N T T先端集積デバイス研究所 部長

土屋 博隆

土屋特許事務所 弁理士

富岡 健吾

日本ペイント(株) 開発部 商品開発グループ
Executive Scientist / マネージャー 工学修士

富山 禎仁

独立研究開発法人 土木研究所
先端材料資源研究センター 材料資源研究グループ
上席研究員 博士(工学)

永嶋 康彦

日本パーカライジング(株) 技術管理部 部長

長瀬 直樹

出光興産(株) 営業研究所 主任研究員 工学博士

長瀧 敬行

地方独立行政法人大阪産業技術研究所 和泉センター
金属表面処理研究部 主任研究員 博士(理学)

中原 正大

中原材料技術研究所 代表 博士(工学)

永吉 沙希

関西ペイント(株) 日本汎用事業部門 建設塗料本部
建設塗料技術部

橋本 永手

東京理科大学 創域理工学部 社会基盤工学科
講師 博士(工学)

長谷川 完

(株)竹中工務店 COT-Lab 大手町代表

濱田 秀則

九州大学大学院 工学研究院 社会基盤部門 教授
博士(工学)

平山 良夫

平山技術士事務所 所長 工学修士
技術士(金属部門)

比留川伸司

(一財)日本塗料検査協会 検査部 検査部長
修士(理学)

福里 亨

J F E エンジニアリング(株) 導管技術部
保全・解析室 課長

福田 敬祐

日本防蝕工業(株) 大阪支店 技術部 部長

福谷 俊幸

丸福梱包(株) 代表取締役

藤田 栄

北海道大学大学院 工学研究院 客員教授 工学博士

藤村 一正

元石原ケミカル(株) 修士(工学)

藤原隆太郎

三菱ガス化学トレーディング(株) 機能材料本部ライフ
ソリューション部 副主査

二木 崇

味の素(株)バイオ・ファイン研究所(BFBI-3)
主任研究員

星野 雅彦

(株)ナカボーテック 商品開発部 開発一課
博士(工学)

細川 長幹

アドコート(株) 技術部 開発課

細田 友騎

日本カニゼン(株) 技術部 研究開発室

前田 将克

日本大学生産工学部 機械工学科 教授 工学博士

前山 和弘

(一社)日本防錆技術協会 技術部 業務部 兼任 係長
工学修士

政野 誠治

カンメタエンジニアリング(株) 技術部 参与

松野 英則

大日本塗料(株) 構造物塗料事業部
テクニカルサポートグループ 専任部長

松本 倫毅

(一財)日本塗料検査協会 西支部 検査部長

宮川 正広

富士ゲル産業(株) 営業部 課長代理

三宅 猛司

公益財団法人名古屋産業振興公社 研究推進部長
工学博士

宮寄 香

(有)宮寄塗装工業 代表取締役

村瀬 正次

J F E テクノリサーチ(株) マテリアル評価・解析 Div
腐食評価・解析センターセンター長 工学博士

村田 和也

鹿島建設(株) 建築管理本部 建築設備部 専任部長

元木 伸治

日本パーカライジング(株) 製品事業本部
市場統括事業部

諸岡 祐弥

中部キレスト(株) 研究部 マネージャー

山口 明久

千代田化工建設(株) 品質管理部 シニアコンサルタント

山口 学

富士レジン工業(株) 技術部 次長

山路 徹

国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所
港湾空港技術研究所 構造研究領域 領域長
博士(工学)

山中晋太郎

日本製鉄(株)技術開発本部 表面処理研究部 課長
修士(工学)

山本 勝美

元早稲田大学 工学博士

山本 浩史

ユケン工業(株) 化学品事業本部
化学品営業グループ 関西エリア

渡邊 秀人

小島化学薬品(株) 取締役常務執行役員 表面技術部
部長

募 集 要 項

◆ 募集科名(専攻)と募集人員	施 設 防 食 科	150名
	防 錆 塗 装 科	150名
	防錆塗装科別科	100名
	め っ き 科	50名
	防 錆 包 装 科	50名

◆ 受講資格 高等学校卒業程度の学力を有する方

◆ 募集期間 令和7年10月24日(金)～令和8年3月25日(水)

◆ 特別会費(受講費)

受講区分	一 般	正 会 員 ^{☆☆}	
新 規	219,000円 消費税(19,909円)	198,000円 消費税(18,000円)	
追加・既 [☆]	118,000円 消費税(10,727円)	100,000円 消費税(9,090円)	(消費税10%込)

☆追加とは : 専攻科を同時に複数受講される場合

☆既とは : すでに当学校を修業された方が他の専攻科を再度受講される場合

☆☆正会員とは: 次頁に記載されている当協会正会員会社の社員が受講される場合

◎特別会費(受講費)には、副教材として月刊技術誌「防錆管理」誌など学習に必要なすべての費用が含まれます。

但し、旅費・交通費・宿泊費・郵送費などは、各自のご負担となります。

受講手続きについて

◆ 受講手続き

1. 入学願書 本人がかい書で記入して、学校事務局へ郵送してください。
2. 写真1枚(縦3cm×横2.4cm) 正面上半身、脱帽、無背景、3か月以内に撮影したもの。裏面に氏名を明記の上、入学願書の写真貼付欄に貼り付けてください。
3. 特別会費(受講費)申し込み時に納入。(納入された受講費は、返還いたしません。) 申込時に受講費の納入が難しい場合には、令和8年4月10日までに納入してください。



入学願書

◆ 特別会費(受講費)納入方法

1. 銀行振込 : 三菱UFJ銀行 本店 当座 7658372
(口座名 : 一般社団法人日本防錆技術協会)
(登録番号 T7010405010537)
2. 現金書留 : 〒105-0011 東京都港区芝公園3-5-8 (機械振興会館)
一般社団法人日本防錆技術協会 学校事務局宛
Tel 03-3434-0451

(一社)日本防錆技術協会 正 会 員

(令和7年10月現在)

EARTH CREATE (株)	(株)ケット科学研究所	中国塗料(株)	日本パーカライジング(株)
アイ・エス工業(株)	(株)ケミコート	中部キレスト(株)	(一社)日本パルスレーザー振興協会
愛知製鋼(株)	三喜工業(株)	千代田化工建設(株)	日本防蝕工業(株)
(株)アサヒ	(株)サンコウ電子研究所	(株)デーロス・ジャパン	日本メカケミカル(株)
アドコート(株)	(株)C S J	東亜ディーケーケー(株)	(株)新来開発
アロウィング(株)	G - T O O L (株)	東海塗装(株)	パーカー加工(株)
(株)イーパック	J F E エンジニアリング(株)	東京ガスネットワーク(株)	(株)パルテック
出光興産(株)	J F E スチール(株)	東京電設サービス(株)	(株)日立製作所
WINOA IKK JAPAN (株)	J F E テクノリサーチ(株)	東京メタリコン(株)	(株)ヒット・インターナショナル
上村電建(株)	城北化学工業(株)	東興ジオテック(株)	(株)星野産商
A P C エアロスベシタルティ(株)	(有)昇和産業	(株)トウベ	堀富商工(株)
(株)エコクリーン	ショーワ(株)	(株)ナカボーテック	マグニジャパン(株)
NOFメタルコーティングス(株)	(株)白浜工業	日鉄エンジニアリング(株)	三井金属鉱業(株)
N T T 東日本(株)	新糸満造船(株)	日鉄建材(株)	三菱ガス化学トレーディング(株)
E N E O S (株)	新東工業(株)	日鉄鋼板(株)	(有)宮寄塗装工業
(株)エムテック	神東塗料(株)	日鉄テクノロジー(株)	モメンティブ・パフォーマンス・マテリアルズ・ジャパン合同会社
王子エフテックス(株)	スギムラ化学工業(株)	日鉄防食(株)	山川産業(株)
(株)沖神	制研化学工業(株)	日東電工(株)	山文油化(株)
(有)沖縄建装工業	綜研テクニックス(株)	日本製鉄(株)	油化産業(株)
カシユー(株)	第一高周波工業(株)	日本ペイント(株)	ユケン工業(株)
関西ペイント(株)	大同化学(株)	ニトックス(株)	(株)ユシロ
(株)関東アスコン	大日本塗料(株)	(一財)日本ウエザリングテストセンター	(株)ユタカ産業
カンメタエンジニアリング(株)	タイユ(株)	日本化学産業(株)	(株)ゆにてつくす
北日本防食(株)	大洋シーアイエス(株)	日本化工機材(株)	横浜ガルバー(株)
共栄社化学(株)	大和化成(株)	日本カニゼン(株)	吉川工業(株)
キレスト(株)	(株)竹中工務店	(一社)日本鋼構造協会	ローバル(株)
(一社)クリーンレーザー工法協会	タマガワ(株)	日本テストパネル(株)	
恵和(株)	中央工産(株)	(一財)日本塗料検査協会	

● 本 部

● 中 部 支 部

● 関 西 支 部

● 沖 縄 支 部

受講のお問い合わせ・お申し込みは

一般社団法人 日本防錆技術協会学校事務局

〒105-0011 東京都港区芝公園3丁目5番8号
(機械振興会館309号)

TEL (03) 3434 - 0451 FAX (03) 3434 - 0452

E-mail : jacc@jacc1.or.jp

<http://www.jacc1.or.jp>



